

平成19年度の

保育園入園児を募集!

一斉申込受付は1月

平成19年4月からの市立・私立保育園への入園児童を募集します。現在待機中の方や新年度から転園を希望する方も、再度申し込みが必要になります。

平成19年1月5日(金)～11日

(木)・土・日曜日、祝日も受け付けます(の午前9時30分～午後4時30分(正午～午後1時を除く)、市役所第三庁舎311・312会議室で。

募集人数は、申込会場に掲示します。園によっては募集のないクラスもありますので、ご注意ください。

申込手続や保育園に関する情報は、冊子「保育園入園案内」(12月発行予定)・みたか子育てネットhttp://www

w.kosodate.mitaka.ne.jpをご覧ください。

市外の保育園の申込受付

▼12月1日(金)～8日(金)(土・日曜日を除く)に子育て支援室(市役所4階(4番窓口)へ申し込む。

市区町村によって締切日が異なりますので、締切日を確認のうえ早めに申し込んでください。

障がい児保育の申込受付対象は障がいの程度が軽・中程度で集団保育が可能な0～5歳児。募集は若干名。保育園は市で指定します。

▼11月30日(木)～12月6日(水)(土・日曜日を除く)に子育て支援室(市役所4階(4番窓口)へ申し込む。

かせて!

11月15日(水)午後4時～4時45分

おもちゃの病院 壊れたおもちゃを直します。

11月8日(水)午後2時～4時

いずれも直接会場へ。

西児童館☎31-6039

ちびっこの日 遊戯室に乳幼児向けの遊具が登場!

開館日の午前9時～午後1時

サークルタイム 親子で体操、手遊びなどを楽しみましょう。

月・土曜日の午前11時30分～正午

いずれも直接会場へ。

ちびっこの日スペシャル お庭であそぼう

11月8日(水)午前10時から

秋空の下、庭で楽しく体を動かしましょう(雨天の場合は室内あそびに変更)。

ちびっこの日スペシャル

誕生間もないお子さんの入園申込

保育園は、生後57日からの

お子さんをお預かりしていただきます。誕生直後で一斉申込期間中に出生届の提出ができない

お子さんと、一斉申込期間終了後2月3日までに誕生するお子さんは、次の日程で入園申込を受け付けます。

▼出生届提出後、1月12日(金)～2月7日(水)(土・日曜日、祝日を除く)に子育て支援室へ申し込む。

▼同室☎内線2662

やきいも大会

11月16日(木)午前10時30分

ら。秋の味覚「やきいも」をみんなで食べよう!なんじやもんじやの森集合・解散い

も代は1本100円(当日集金)。

▼11月11日(土)までに直接または電話で同館へ申し込む。

むらさき子どもひろば

☎49-5500

一輪車教室(小学生対象)

11月14日(火)午後3時15分

4時30分(受付は3時30分まで)四小校庭で(雨天中止)。

一輪車をお持ちの方は持参可。

のびのび王国 大きなふわふわマットやトランポリン、

滑り台、ポリカーなど遊べ

ます。

開館日(土・日曜日、祝日

を除く)の午前9時30分～11

時20分

ルンリンばるん 0～1

歳児前半を対象のわらべ歌遊

開館日の午前11時～11時10分

つとよい バチバチマン体操

今月の歌、手遊び、紙芝居、お誕生会など。

開館日の午前11時30分～11時45分(お誕生会を希望される方は、午前11時10分までに受付へ)。

スーパのびのび王国 新聞紙あそび(11月7日(火)、小麦粉ねんどあそび(11月24日(金)、いずれも午前11時～11時45分)。

▼いずれも直接会場へ。

赤ちゃんの誕生祝い

記念樹をプレゼント

赤ちゃんの健やかな成長を祈念するとともに緑に親しむ心がはぐくまれるよう、市内在住の新生児に誕生記念樹の苗木をプレゼントします。

▼11月10日(金)(消印有効)までに、往復はがきに世帯主の氏名・住所・電話番号・新生児の名前・月齢・希望する樹種(キンモクセイ、カンツバキ、ゲッケイジュ、サルスベリ、ベンジャミン、ハナカイドウ、ウメのうちから一つ)を記入し「〒181-8555三鷹市役所緑と公園課」へ申し込む。

苗木は11月22日(水)に市役所中庭で配布します。

▼同課☎内線2833

子育て用品のフリーマーケット

就学前のお子さんをもちお母さんたちのグループによるフリーマーケット。

11月12日(日)午前10時～午後1時30分、子ども家庭支援センターすくすくひろば(下連4-19-6)で(雨天決行)。

▼当日、直接会場へ。

▼同ひろば☎45-7710

ファミリーサポートセン

ター交流会

ファミリーサポート利用会

員と援助会員の対話形式の交流会(親子参加)です。利用会員として登録をお考えの方もご参加ください。

11月25日(土) 午前10時～正

午、午後1時～3時、市民協働センターで。

▼11月15日(水)までにファミリーサポートセンター☎76-6817へ申し込む。

障がいをもちた新1～3年生の学童保育所入所の申込受付

対象は来年4月に新1～3年生になる障がいをもちたお子さんで、両親の就労などのため、下校後(午後5時)まで延長保育は6時まで)の保育を必要とする方。

▼11月6日(月)～11月17日(金)(土・日曜日、祝日を除く)の午前9時～午後5時に、申込書と保護者の就労証明書(規定の用紙)などを添えて三鷹市社会福祉協議会(福祉会館1階)へ申し込む。申込書は同協議会窓口、生涯学習課、北野ハピネスセンターで配付。

そのほかの入所受付については、12月発行の「広報みたか」をご覧ください。

現在学童保育所に在籍中の児童の申込方法については、別途お知らせします。

▼同協議会☎46-1108

「ご存じですか?」

特別児童扶養手当

特別児童扶養手当は、精神または身体に一定の障がいがあるお子さん(20歳未満)を扶養している保護者に支給する手当です(所得制限あり)。

対象は身体障害者手帳おおむね3級以上または愛の手帳おおむね3度以上のお子さんで、障がいの程度によって月額5万750円または3万3千800円を支給しています。

くわしくは子育て支援室☎

内線2676へお問い合わせください。

児童手当・児童育成手当

の受給者の方へ

児童手当と児童育成手当は、毎年2月、6月、10月に定例支給を行っています。

申請手続きの遅れなどから、10月の定例支給に間に合わなかった方については、11月10日(金)に手当を振り込みます。

▼子育て支援室☎内線2677

子どものころ・からの発達講座開催

日ごろの子育ての中で、「こんなかわり方ではないかな?」と不安になることはありませんか。「育児書を読んでもつづの子に当てはまらない」「もっと子どもの気持ちを知りたい」「具体的な対応方法を知りたい」、そんな声も聞かれます。

子どもの心や体がどのように成長していくのかを知り、発達を促すためのかわり方や生活の仕方を考えてみましょう。

8カ月～1歳未満児 11月27日(月) 1歳6カ月～2歳未満児 11月30日(木)

2歳8カ月～3歳4カ月未満児 11月13日(月) いずれも総合保健センターで午前10時～11時45分。定員各40人。保育定員各30人(は20人)。

▼事前に直接または電話で総合保健センター☎46-3254へ申し込む(先着順)。

さらに安全で安心な学校づくりをめざして

市立小中学校全校に防犯カメラを設置します

授業中や登下校時の児童の安全を守るため、5月から市立小学校に学校安全推進員(愛称)みたかスクールエンジ

地域で子どもたちを守ろう

ストップ! いじめ

最近、他県でいじめを苦に、児童・生徒が自らの命を絶つという痛ましい事件が続いています。

市教育委員会では、いじめ問題に対応するため、総合教育相談窓口で夜間の電話相談を実施するとともに、児童・生徒や教員に対する意識調査や、学校・家庭・地域が連携した「いじめ問題対策会議」の設置などの取り組みを進めています。

また、教職員に対しては、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に関する対策・対応を

徹底するよう指導しています。しかし、いじめの根絶には地域のみなさんご協力も必要です。ご自分のお子さんはもちろんのこと、周囲の子どもたちに関しても、何か気になることがありましたら、ぜひ、総合教育相談窓口(☎47-0110)にご相談ください。

相談受付時間 月～金曜日と第1・3・5土曜日の午前8時30分～午後4時(12月25日までの月・木曜日は午後8時30分まで)

⇒指導室☎内線3243

市民文芸

三鷹短歌会九月の秀歌 (選と評) 金田 義重

短くも長くも思ふ妻の座を解かれて 寂し百合の花咲く 大平 光子 「評」妻の座を解かれしは、この作品では、夫の死を意味しており、遺児に、やや違和感が残るが、一首を通し哀切の情が滲み出ている。

「評」今朝はもう咲くまいと諦めていた朝顔が、いつもの様に咲いた喜びと、その健気さへの感動が滲み出ている。あぶら蜂の声に力のわき来れば書き日ながらペダル踏み行くと、花輪 明子 「評」曇さへの挑戦の歌、ジジイと囀る声高の聲は曇さを倍増させる感があるが、その声を力として、曇さに立ち向かうとする発想が面白い。

エルスを設置していますが、さらに安全性を高めるため、11月中旬から全校に防犯カメラの設置工事を始めます。防犯カメラは、校門、通用門などの出入口付近または校庭内で教職員が目届きにくいところに設置する予定です。また、見やすい場所に「防犯カメラ作動中」の表示をします。

↓総務課☎内線3213

弟が吾より先に逝くなんて復讐姿今に忘れず 大平 光子 「評」上句にはやるせぬ無常観が、下句には印象的な思い出が簡潔に述べられ、せつなさが増幅されている。友の父自縊余に逝きましぬ生を讀へて悔み申す 高木 文代 「評」生を讀へてお悔み申す、ではありきたりの歌、「申さず」で生きた。朝の風少し涼しき運び来てカーテンふはりとくぐらみ揺る。